

## 神様の無茶振り (マルコ 6 : 34~44)

信者の特権であり祝福です。なのにみことばを聞いてもそれがなかなか自分のものになれず、みことばと自分の心に距離ができてしまい、みことばが実ることをなかなか見ることができない。そして、みことばとともに羽ばたいていくべきなのに、逆に翼を折ってしまうようになるということはなぜなのでしょう。いろんな理由があるでしょうけれども、神様のみことばが無茶振りに聞こえてくるときがあるからです。しかし、神様に無茶振りなどは最初からありません。神様の無茶振りというのは、私たちが自分の基準で見るから、そういう風に聞こえるだけのことなのです。そういう意味で神様の無茶振りに対しての考え方を修正していかないといけません。これから残りの生涯、神のみことばが実る勝利の主人公として歩んでいきたいと思えます。ではその神様のみことばの無茶振りに対しての考え方をどのように修正していけばいいのでしょうか。

### 1. 神様の無茶振りは、信者をいやす配慮である。

その第一が、神様の無茶振りは、信者の私たちがいやすための神様の配慮です。もう一度言います。神様の無茶振りは、信者の私たちがいやすための神様の配慮です。

今日の聖書を見ますと、大勢の群衆がイエス様に従っていました。それで食事もまともにできないような状態が続いていたので、弟子たちがイエス様に提案します。「彼らを近くの村に解散させて、近くの村に行って各自食事の問題を解決して、また戻ってくるようにしましょう」という当たり前の提案をします。その時イエス様が、弟子たちにこのようにおっしゃいます。「あなたがたで彼らの食事を上げなさい」とおっしゃいました。

#### 1) “あなたがたで上げなさい。 “二百デナリものパンを？”

パン五つ、魚二匹で、男だけで五千人に

それで弟子たちはびっくりします。今二百デナリものパン、そのお弁当を私たちが買って彼らに食べさせるという話でしょうか。二百デナリというのは、今のお金で換算すると大体百万円相当の貨幣みたいなです。今そのようなお金もないし、またどこで私たちが男だけで五千人、ということは一万人以上の人間なのに、彼らのお弁当などを私たち 12 人でどのようにするという話でしょうかとイエス様に反応しました。つまり、一万人以上の食事の問題をイエス様がいきなり「あなたがたで、上げなさい」という無茶振りのようなことをおっしゃったので、弟子たちは「今何をおっしゃっているのですか」「そんな無茶な。冗談もほどほどにしてください」という思いを少し丁寧に表現しただけなのです。皆さんだったらどうしましょう。しかし、彼らは本当にイエス様のおことばが無茶振りに聞こえました。常識的に考えると、無茶振りに間違いありません。それで冗談言わないでくださいというふうにみことばに対してそのような反応を示すことになりました。これが当たり前に思われるかもしれませんが、イエス様はその後、五つのパンと二匹の魚で、男だけで五千人、一万人以上の人を食べさせて余ったので、12 の籠に余ったものを入れることになりました。これはどういう意味なのでしょう。冒頭で申し上げましたように、神様のみことばに無茶振りだと思われるものがあるのでしょうか、神様には最初から無茶振りなど一つもありません。私たちがそのように思うだけです。結果的にイエス様が「あなたがたで、彼らに上げなさい」とおっしゃったそのおことばは無茶振りではなかったということが証明されたのではないのでしょうか。

#### 2) 自分の限界、肉の限界、世の限界-奴隷の習性

つまり神の無茶振りと思うのは、私たちが今まで神さまを離れて、神様のいない自分だけで生きることに慣れていて、その自分という限界に囚われているという表れなのです。また、霊の世界に全く無知な状態で目に見える肉のことだけにこだわるその限界というものが私たちにあったということの表れです。そして、永遠なるものなど全く知らないでこの世、また世にあるものがすべてだと思えるその考え方により、世の限界に囚われていたということの裏返しのようなものなのです。このように自分と目に見える肉、この世の限界に囚われているということを、実は奴隷の習性と言います。でもそれが生まれたときからごく当たり前のことになっていて、イエス様に従っているにもかかわらず、その習性がそのま

ま残っていて、彼らの考え方を支配して動かしていたわけです。それがイエス様の無茶振りのおことばの前で露わになりました。

### 3) 創世記 17:17、出エジプト記 3:11、14:11、使徒 1:6

神様がアブラハムに現れて、アブラハムが百歳になったとき、「あなたが百歳になる時に、サラから子どもが生まれるよ。契約の子なんだ」とおっしゃったときに、アブラハムがどのように反応したでしょうか。一番最初、アブラハムを召されて、私が指示するカナンの地に行きなさいと言われたときには従っていました。しかし、百才の時に子どもが生まれるという神のおことばの前で、創世記 17:17 を見ますと、「アブラハムはひれ伏し、そして笑ったが、心の中で言った。「百歳の者に子どもが生まれようか。サラにしても、九十歳の女が子を産むことができようか」。冗談言わないように。神様のおことばは本当にありがたいのですが冗談もほどほどにしましょうということアブラハムは笑いました。皆さんも今笑っている顔なのですが、皆さんもアブラハムの立場であれば、アブラハムと同じように笑うでしょう。多分、私たちは声に出して笑うかもしれません。それが普通なのです。それが普通だと信者の私たちも当たり前のように考えているということをよく考えてみてください。神様がモーセを召されて、八十歳になっておちこぼれになっていたモーセにおっしゃいます。パロに行ってわたしの民をエジプトから連れ出さなさい。出エジプトさせなさいと神様が笑ったときに、モーセが出エジプト 3:11 でこのように反応を示します。「モーセは神に申し上げた。「私はいったい何者なのでしょう。パロのもとに行ってイスラエル人をエジプトから連れ出さなければならぬとは」。神様、今の私をご存知でしょう。冗談言わないでくださいという反応を示したわけです。無茶振りしないでください。無茶ですよとついついそう言っていました。それから神様の奇跡により過越しの血の力によってエジプトの奴隷の生活から 430 年ぶりに解放されて出エジプトしました。その後、神様がイスラエルの民を紅海の前で連れて行かれます。その時、後ろからエジプトの兵士が追いかけてくる場面に遭遇して、紅海を渡らなければいけない状況になりました。その時のイスラエルの民の反応です。これは無茶だ。こんな無茶振りがどこにあるのかということで、彼らは丁寧とかそういうことありません。もうありのまま感情を爆発してしまうのです。それで出エジプト 14:11 を見ますと、モーセにそれを訴えるわけです。

「エジプトには墓がないので、あなたは私たちを連れて来て、この荒野で、死なせるのですか。私たちをエジプトから連れ出したりして、いったい何ということ私たちにしてくれたのです」と訴えたわけです。こんな無茶なことがあるのかとそういうことを言っていたわけです。それからイエス様が復活なさって 40 日の間、初代教会の弟子たちを集めて、あなたがたを通して世界福音化が成し遂げられるよ。これからエルサレムから地の果てにまで福音宣教のためにあなたがたが用いられるよ。世界福音化しなさいとおっしゃったわけです。それに対して初代教会の人たちが、まず私たちは今どのような者なんでしょうか。70%以上が女性であり、また男性でも下っ端をくぐるような人間ばかりで、ユダヤ教、ローマから迫害されるような状況の中で世界福音化、しかも 120 人ぐらいしか集まっていない中で世界福音化という神のみことばに対して無茶じゃないかという反応をどのように丁寧に表現したのかということ、「イエスにこう尋ねた。「主よ。今こそ、イスラエルのために国を再興してくださるのですか」。無茶言わないようにという反応をしていたわけです。神様が笑ったことが無茶振りに聞こえるので、それが自分のものになりません。教会に通っていて礼拝は捧げます。みことばは聞きます。しかし、いつまで経ってもその距離が縮まらないのです。そういう状態ではみことばが実るということは期待できません。これが神様の無茶振りを通して明らかに表に出てくるようになりました。つまり、神様の無茶振りは、みことばが無茶振りに思われることは、裏返しますと、私たちの内側に自分、肉、この世、つまり神様を離れて固まっている、そのいやされなければいけないものが私たちにやぐらを作ってしっかり住みついているんだということの表れなのです。

### 4) 常識、宗教、倫理、律法…

でも、私たちは常識をもって神のみことばを見るので、それが無茶振りに聞こえるわけです。その常識がいやされなければなりません。宗教的な感覚、また倫理の感覚、律法的な考え方などなどをもって神のみことばを聞くのでそれが無茶振りに聞こえるということを確認して素直に認めなければなりません。つまり、神のみことばが無茶振りに聞こえるその時点で、それは「ああ、私の内側にいやされなければいけない、固まっている暗やみの枠ができていんだな」ということに気づかなければいけないし、それを素直に認めることが大切な恵みです。そのために神様は無茶振りをおっしゃるわけです。無茶振りではありませんけれども、私たちから見たときには神のみことばが無茶振りに聞こえるのです。イエ

ス・キリストが十字架で死なれて三日目に死者の中からよみがえられる。それは無茶なことです。それが一番の無茶の中で無茶なのです。本当にそれが無茶振りなんのでしょうか。私たちの中にそういういやされなければいけない不信仰のやぐらが住みついているということの裏返しだということを感じていてください。そうでないと残念ながら恵みによって救われて教会に通い礼拝を捧げて神のメッセージを聞いているにもかかわらず、みことばと私と関係のない人生をずっと送るようになります。なんと悲しい残念なことでしょうか。神様の無茶振りの意味は、まず第一にこれです。そして、私たちが神のみことばに対して無茶だなと思うような見方、考え方を修正しなければいけない、その内容です。神の無茶振りは私たち信者をいやすための神様の配慮なのです。

## 2. 神様の無茶振りは、信者の信仰告白を待つラブコールである。

そして、もう一つ、神の無茶振りは何かと言いますと、信者の私たちの信仰告白を待つ神様のラブコールなのです。

神様は私たちを驚かすために、脅かすために無茶をおっしゃっているわけではありません。もう一度言います。神様は最初から無茶などは一切ございません。なのに神のみことばがなぜ距離ができて遠いもの、私と関係ない無茶な話聞こえるのでしょうか。私の内側が病んでいるからです。私の内側が神のいない習性が染みついて杵ができていてやぐらが立ってるからそうなるということを感じていてください。神の無茶振りは、信者の信仰告白を待つ神様のラブコールです。

### 1) 旧約-Only キリスト、絶対キリスト-エゼキエル 37:3、ヘブル 11:19

その信仰告白が何かというと、旧約の時代には Only キリストを告白してもらい、神様がそれを待っていらっしゃるのです。そのために無茶振りをおっしゃるわけです。Only キリスト、絶対キリスト。何があっても。紅海の前でも。モーセにこれから出エジプトをあなたを通してやるよとおっしゃったとき、それは神様のラブコールなのです。「あ、そうですか。私は 80 歳の年寄りでもできません。パロ王は世界最高の国の王様であります、Only キリスト、絶対キリストなので信じます」ということを待っていらっしゃるのです。けれどもモーセはそういうふうに反応しませんでした。神様の無茶振りは、信者の信仰告白を待つ神様のラブコールであることを忘れないようにしましょう。それで神様がエゼキエル預言者に現れて、このようにおっしゃいました。主は私に仰せられた。人の子よ。これらの骨は生き返ることができようか。無茶な話です。死んで骨になっている者に対して、これがまた生き返ると思うのか。無茶でしょう。そんなのありえません。しかし、エゼキエル預言者は、「神、主よ。あなたをご存知です」。これは私は知りませんよという意味ではありません。長く説明する時間はありませんので、キリスト Only。女の子 Only。絶対キリストという告白をしました。この反応を神様は待っていらっしゃいます。無茶をおっしゃっているわけではありません。それから、アブラハムが笑っていたのですが、その後、イサクが生まれたあと、アブラハムは変わります。それである日、神様がアブラハムに一人っ子のイサクを犠牲のいけにえとして捧げなさいとおっしゃいました。無茶振りでしょう。百才になって奇跡的に授かりました。しかも 2 人、3 人でなく一人っ子です。それを捧げるとは全部がぐちゃぐちゃになって壊れていくようなことなのです。でも、そのときに無茶なお話を通して神様はアブラハムの信仰告白を待っていらっしゃるわけです。神様は私たちを愛してラブコールをいつも発していらっしゃるのです。あなたが本当に私を愛しているのか。その愛というのは、ただの感情的な愛情ではなくて信仰告白なのです。ヘブル 11:19 には「彼は、神には人を死者の中からよみがえらせることもできる、と考えました。それで彼は、死者の中からイサクを取り戻したのです」。キリスト Only。絶対キリストをここでやっとアブラハムは告白しました。神様は喜ばれたでしょう。これが神様の無茶振りなのです。

### 新約-イエスはキリスト-ルカ 1:38、I コリント 15:3-4

そして、新約聖書での神様が待っていらっしゃる信仰告白が何かというと、このキリストが実際に来られたので、イエスはキリストという信仰告白です。ルカ 1:38 を見ますと、処女マリヤに天使が現れて、あなたが身ごもってこれから子どもを産むよと。これは無茶な話でしょう。結婚もまだしていないのに、男の人を知らない状態なのに、処女の体から子どもが産まれるというのは無茶な話です。そのときに「マリヤは言った。ほんとうに、私は主のはしためです。どうぞ、あなたのおことばどおりこの身になりますように」。この信仰告白です。キリスト Only、絶対キリスト。この信仰告白を待っていらっしゃるわけです。これが神様の無茶振り、神のみことばから見られる無茶振りの真相です。I コリント 15:3-4

を見ますと、「私があなたがたに最もたいせつなこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書の示すとおりに、（つまり、みことば通りに）私たちの罪のために死なれたこと、また、葬られたこと、また、聖書の示すとおりに、三日目によみがえられたこと」。パウロが言いました。イエス・キリストが死んでよみがえられるということは、人類史上最高の無茶振りなのです。しかし、そのおことば通りに聖書の通りにそのようになりました。これが信仰告白です。イエスはキリストです。

## 2) 弟子たちに、アブラハムに、イスラエルの民に

イスラエルの民が紅海の前に立ったときにも、普通に考えて紅海が人間が渡れるような状態ではありませんでした。その無茶な状況が許されたのは、イスラエルの民がその時にキリスト Only、絶対キリストを告白してほしいという神様のラブコールなのに、なんで私たちをここで死なせるのかという反応になってしまいました。初代教会にイエス様がオリーブ山で世界福音化をおっしゃったときにも、イエスはキリストですよと告白してほしいわけだったのに、イスラエルの国を今再興してくださるのですかと反応を示したわけです。五千人以上の男の人、一万人以上の人にあなたがたが食べさせなさいとおっしゃったその無茶振りは、そのときにイエスはキリストですという信仰告白を待っていらっしゃったわけです。それは確かに私たちのレベルから考えたときには無茶振りに間違いありません。しかし、ひとつ欠けています。もしそれをおっしゃったイエス様がキリストで間違いなければ話は違うのです。これは私たちの真髓、信仰の骨太になるものです。頭の悪い人間も状況的に険しい信者もいるかもしれません。さまざまな悩みを抱えているでしょうけれども、しかし信仰告白は皆に与えられている祝福であり、神様が待っていらっしゃることなのです。どんなに弱い人間でも。こんな弱い私に何ができましようかということをお願いしたいのですが、その前に神様はその人を愛して信仰告白を待っていらっしゃいます。あなたが土の器のような弱い人間でも、四方八方からいじめられてる状態でも、イエスはキリストが間違いなければ話は変わるのではないかと。この信仰告白を待っています。過去の傷に囚われて今も精神的に悩んでいる方々もいらっしゃるかもしれません。どうしても思い通りうまくいかなくてプレッシャーによってストレスによって鬱の状態になる人もいるかもしれません。そこで神様のみことばは到底今の私と合わない勝手に速やかに思うかもしれませんが違います。そこで神さまは待っていらっしゃいます。歯を食いしばってでも、イエスはキリストであることは間違いないので、イエスはキリストと告白すると話は変わります。すべての問題は既に終わったことで、問題は問題ではありません。弱さも問題になりません。むしろパウロのように弱さを誇りに思うようになります。そういう内側からのいやし、変化、光が私たちの内側に照らされるようになるために神様はラブコールを送っていらっしゃるわけです。なのに、私たちは見事に悪魔に騙されて、何をおっしゃっているのですか。講壇で牧師がお話をしても眠るしかありません。私と関係ない話だから。どんなに素晴らしい話でも距離があまりにもあって、大阪から東京ぐらい距離ができてしまうので。それもこれからより早い新幹線ができればもっと縮まるとは思いますが。そういう距離など1mmも本当はいりません。神のおことばは私のために与えられるものです。誰かさんのためではありません。自分のことばとして受け入れましょう。でも、なぜそれがそうならないのか。今日申し上げました。無茶振りだと思っただけです。無茶振りだと思っただけの瞬間、すぐに気づいてください。「あ、私の内側にいやされなければいけないそのやぐらが住みついているのだね。枠ができて固まっているのだね」。素直に認めるところからいやしは始まります。その効果のために神様は無茶振りをおっしゃっています。無茶振りではありませんけれども。でもこのことがちゃんと修正されないと教会に通っていても、自分のレベルで理解できるものだけを仕入れます。それはもはや神のみことばでも信仰でも何もないです。ただ常識的に生きるため、宗教の力を得るために教会に通うだけです。教会はそういうところではありません。自分のレベルに自分の理解に値するものだけではなくて、そういう信仰がすべて砕かれていくように祈りたいと思います。素直に神のみことばをありのまま受け入れる信者になりましょう。一瞬、理解できないなと思っても、それは私の内側の不信仰のやぐらの問題であって、神のみことばには無茶振りなどは最初から存在しません。私たちのいやすべきところを表に露わにするための神様の配慮であり、神様のやり方なのです。神のみことばに対しての姿勢を変えないといけません。生かすものは霊であり、肉は無益なんだ。わたしがあなたがたに語ったおことばが霊であり、いのちですとおっしゃいました（ヨハネ 6：63）。神のみことばの他には希望はありません。せつかく信者なのに距離ができるということはなんと残念なんですか。それで神の無茶振りの前で、この信者としてのイエスはキリストという信仰告白に立ちますと、つまり、神のラブコールに応答すると必ずこちらの方にたどり着くようになります。

### 3) 使徒 1:7-8、14

使徒 1:7-8 です。それはあなたがたは知らなくてもいいです。今までの考え方、今までの見方、すべて下ろしなさい。一つだけにこだわらない。イエスがキリストに間違いなければ、Only 聖霊が臨まれると、あなたがたは力を受けて、常識も律法も限界もすべて超えて、地の果てにまでイエスの証人となりますので、ここに必ずたどり着くようになります。あれがこうだ、これがこうだといったぐちゃぐちゃのことが全部片付けられます。シンプルになります。なぜならイエスがキリストだから。弟子たちが本当にイエスがキリストだと従っているにもかかわらず、まだよく分かっていないのです。あなたがたで食べさせるようにしましょう。イエスはキリストだから。計算では二百デナリとか何とかでしようけれど、知らなくていいよ。Only 聖霊が臨まれると、そちらの方に持って行くべきなのに冗談はほどほどにしましょうとなりました。それでは実りません。みことばが成就することをなかなか見ることができません。礼拝が本当に楽しみで期待でワクワクするようなものにならないといけないのにそういうふうになりません。機嫌がいいときには少しいいな。牧師が少し味方してくれるような気がすれば聞いてみようかな。そうじゃなければ嫌だ…というレベルでは諸々の悪霊が信者を惑わそうとしているこの世界を勝利者として生きていくということは無理なのです。私たちは必ず勝利できます。弱さも環境も条件も何も心配しなくても結構です。問題は信仰告白です。五千人以上、一万人以上、無茶振りのように思われる状況があるのでしょうか。イエスがキリストであれば話は変わります。私たちがやるべきことは計算ではなくて、Only 聖霊が臨まれること、御座の祝福と力と光が臨まれることだけにこだわって 14 節の祈りに専念することになります。

### 4) 神の御言葉は無茶振りじゃないことをご自身で見せられる。

そうすると神のみことばは無茶振りではないということをお神様ご自身が見せられることになります。百才の時に子供が生まれる、無茶振りでしょうと思っていたのですが、イサクは産まれました。ヨセフが世界宣教の夢を見ました。いじめられてる状況の中で無茶でしょう、それは。あまりにも夢物語のようなことでしょう。ヨセフはエジプトの総理大臣になって世界宣教を行いました。紅海を渡るということは無茶振だったのです。イスラエルの民はその紅海を乾いた地のように歩いてカナンの地に入ることができました。イエス様が死んだ人の中から復活、そんなのありえませんか。無茶じゃないでしょうか。イエス様は三日目に死の力を打ち破ってよみがえられました。乞食のような初代教会が世界宣教、無理無理無理。しかし、初代教会はローマを福音化して、その福音が今の私たちのところまで届いているわけなのです。私たちの頭で神様のことを制限しないように。なんでもかんでも信じますよということをお求めているわけではありません。信仰告白です。いやしと信仰告白。これにフォーカスを合わせましょう。

神様はここにいるレムナントから年配の方々に至るまで、全員にあなたの家庭や家系、現場を生かすやぐらなんだとおっしゃっているし、そのように召されました。それで 237、いやし、サミットの主人公なんだとおっしゃっています。このみことばを心を開いて素直に受けましょう。今申し上げました神のみことばが皆さんとどれほどの距離があるのでしょうか。聞いてあーいいなどは思うけれども、自分とはあまり関係ないでしょう。無茶だと思ってしまうでしょう。弟子たちのように無茶ですよとは言えなくて、丁寧にお返事していらっしゃるかもしれませんが、無茶だと思っているでしょう。なぜなら私たちの内側にいやされなければいけない古きものもあまりにも強く残っているからです。常識はいやされなければなりません。なので、それが無茶振りに聞こえるときには、「あ、私の中に捨てるべきものがあるんだ。変えるべきものがあるんだ」ということを素直に認めて、不信仰のやぐらが砕かれるいやしの祝福を祈りましょう。これが謙虚な信者です。それを祈り、それでイエスはキリストという信仰告白の上に立って、みことばをありのまま握って、計算しないで自分の内側に御座の祝福が臨まれ、神の国が立つことをまず祈るようにしましょう。そうすると必ずみことばが成就することを見るようになります。私たちがいやされる神様、私たちにラブコールを送っていらっしゃる神様、その神様に感謝を捧げます。

### (祈り)

恵み深い父なる神様。神のみことばが無茶振りに聞こえることが、私たちの内側が未だに不信仰のやぐ

らに囚われて、いやされなければいけないものがたくさんあるということの裏返しであることを素直に認めて、神のいやしの祝福に預かることができますように。それで神様が信仰告白を待っていらっしゃることを覚えて、その神のラブコールに応答することができて、御座の祝福を祈る信者になるように、それでみことの成就を見ることができるようにしてください。私たちにある不信仰の暗やみがキリストの御名によって砕かれることを心からお祈りいたします。

イエス・キリストの御名によってお祈りをいたします。アーメン